

中国・江西省の環境保全

技術支援へ県とAMD A訪問

県と、友好提携先の中国・江西省、AMD A（アジア医師連絡協議会）主催の「第2回環境保全対策会議」が27日から5日間の日程で、同省の省都・南昌市などで開かれ、同省が抱える環境問題に対する技術支援について意見を交わすほか、県側から環境観測機器が贈られる。

県から環境指導課と県環境保健センター、国際課の職員5人、AMD Aからは2人が出席する。南昌市中で意見交換会を開いた後、自動車工場や金属製錬所、環境監測センターなどを視察。視察の成果をもとに、県からの今後の技術支援の方向性について話し合う。

県から贈られる環境観測機器は、県環境保健センターで使用されていた二酸化硫黄と浮遊粒子状物質の自動測定機が一体となった装置。昨年の同会議で、江西省側から機器を要望する声が上がっていた。

県と同省は平成4年に友好提携を締結。教育、農林、文化などの分野で交流が続いている。環境分野では、江西省で進行している大気汚染や水質汚濁に対処するため、9年から大気監視などの専門技術員を相互に派遣し、測定技術などを支援。国際貢献のノウハウを持ち、環境学習に取り組んでいるAMD Aと連携し、昨年初めて岡山県で同会議を開催した。

県国際課は「水島地区の公害対策などで培った環境測定技術などを、江西省の環境保全に役立てたい」と話している。

対き
策よ
会う
議か
ら

観測機器贈る